

常陸風土記の 世界を満喫!

さきもりえ

まちの駅交流サロン「防人会」



若倉人部広足万葉歌碑を見学

3月9日は、鹿島神宮と防人の鹿島を意味する、祭明祭の日。行方市内でも宇崎姫宮神社の祭頭祭も厳かに行われましたが、立花地域を会場に鹿島立方に因んだ、万葉集・風土記の世界を楽しむ防人会（さきもりえ）が開催されました。まず、霞ヶ浦ふれあいランドの虹の塔から高浜入りと立花地域を鳥瞰し、まちの駅おもかげステーション「さんらいず」で、サロン形式の講演会が開催されました。

講師には、日本考古学協会委員の千葉隆司氏を迎え、「常陸風土記」と「古代遺跡」に見る常陸地方テーマに、立花地方の魅力をつぶり学習しました。

昼食後は、沖洲区の皆さんの力で清掃が行き届いた市指定文化財の三味線古墳、猿の箱輪が出土した大日塚古墳、そして、羽生にある防人占部広方と杉木の防人若倉人部広足の、二つの万葉歌碑を見学しました。

東京や県内から集まった参加者からは、「すばらしい古墳が多く、万葉集に登場する防人の先祖の古墳や



交流サロンで風土記の世界を学ぶ

子孫の館跡を知って、大変興味を持ちました。これだけの古墳や古代遺跡があるから、ひたち飛鳥のイメージにぴったり。」「風土記時代には、国衙領で平安時代末から鹿島社領になったようですが、立花が重要な地域であったことがわかりました。」「古代豪族王生直の名があり、聖徳太子と深い関係があることが分かり、ワクワクしました。」などの意見がありました。

主催した、いばらき市民活力センターでは、これからも祭頭祭の時期に合わせて、万葉集や常陸風土記に親しんでいただく防人会を開催するとしていきます。

麻生藩紹介ブースが完成



豪壮な入母屋造の茅葺き屋根が特徴の麻生藩家老屋敷記念館

「麻生藩家老屋敷記念館」内の麻生藩紹介ブースが完成し、3月8日にオープニングセレモニーが行われました。

同記念館は、江戸時代、現麻生小学校の場所に麻生藩陣屋があり、その周辺に藩士の屋敷が並んでいました。その一つが藩の家老職を勤めた烟家（現麻生藩家老屋敷記念館）です。現存する主屋は安政3年（1856年）に火災で焼失し、翌安政4年に再建されました。明治23年（1890年）福田家の所有となり、平成3年福田家より麻生町に









麻生は「小国倉」の歴史のある歴史のある陣屋まちです。皆さん、ゆったりお楽しみください。（なまがた栗飯丸グループプロジェクトおちてなしグループメンバー）

寄贈され、平成4年に表門を含め修復整備したものです。上層武家住宅の遺構は、県内にも数が少なく、貴重なものとなっています。

今回の展示ブースには、「湖を愛した外様大名新庄氏」、「新庄氏を支えたユニークな家臣たち」、「高瀬船で往く参勤交代」などのパネル7枚を設置し、麻生陣屋とまちのすがたを紹介しています。

セレモニーのあいさつで、新館教育長は「多くの人々に見てほしい。そして、郷土の文化を愛してほしい」と話しました。

【市の花】	【市の木】	【市の鳥】	【面積】	【人口】	【世帯数】
 ヤマユリ (山百合)	 イチヨウ (銀杏)	 シラサギ (白鷺)	 166.33km ²	 男 19,694人 (-33) 女 20,015人 (-24) 計 39,709人 (-57)	 11,560世帯 (+14)

3月1日現在 ()は前月比